

さわやか愛知とともに歩んでくださるケアワーカーの一人ひとりをご紹介していくコーナーです。

ゲストは 小玉 美津江 さん

1995年といえば阪神・淡路大震災、イチローの活躍でオリックスがリーグ優勝した年、その年にさわやか愛知に登録した先輩である。

電電公社では電話交換取扱者という資格がないと交換手ができなかった時代の話。中学校の社会科の女教師の「女性も一生続けられる職業を」という一言に共感し、電電公社の電話交換手に就業する。結婚、出産を経ても初志貫徹で勤務を続けた。

4人の子育てをこなしながらの続投だった。

19歳の頃、初心者ながらに槍穂高縦走ルートを踏破した意志の強さが、うかがえる。

常に、筋を通す生き方を選び続けた。

時に厳しい状況での選択もあったが、その選択に後悔はない。

「自由を選んだの」と微笑む姿に、大人の余裕が溢れる。

さわやか愛知との遭遇は、とある会場で目にした介護をテーマにした寸劇だった。

出演者の中の一人、川上理事長の姿に、感銘を受けた。

「あぁ、すごい人がいるなど、わくわくしたの」

後日、一人で理事長宅を訪ねた。

「途中で道を尋ねる電話をかけたら、その電話ボックスまで迎えに来てくれたのよ。素敵でしょう？」

介護保険制度が始まる前に、たすけあいの会の活動を開始した。

在宅での見守りや病院でのターミナルケアなどの依頼が印象に残っている。

電話交換手の仕事は、非常に強力なコミュニケーション能力が必要とされる。加えて豊富な知識と女子アナのような滑舌の良い甘い声、話し相手としては理想的なケアワーカーだった。

ヘルパー資格は、1995年大府市主催の講座で取得していたが、介護保険制度が始まってからも、たすけあいの会の活動をメインに据えた。

「こっちの活動の方が私には向いていると思ったの」常に人とのつながりを意識していた。

「さわやか愛知で、たくさん素敵な人たちと知り合えたことが一番の思い出ね」

ケアワーカーの後、請われてさわやか愛知の理事も務めた。

「今は息子と二人暮らしなんだけど、70歳の時に夕食は義務で毎日作るのは止めると宣言したのよ。子供たちは『お母さんは変わってる』と言いながらやさしくしてくれるわ。一人で映画を見に行ったり娘たちと旅行を楽しんだり、自由な時間を謳歌しているの」



結婚当初から書き続けているという家計簿を参照しながら作成した履歴のメモをお持ちくださった几帳面さに、当時から川上理事長も深く信頼を寄せている。

かと思うと、人生は選択の連続で成り立っているのだと実感させられる豪胆な一面も持ち合わせておられる。

” 尊敬すべき、嫺やかな女傑像を胸に刻みました。

次回は 三好さんです

## さわやかデイサービス & タウン

### デイサービスは 初詣で2020年のスタート

皆さんが、どんなお願い事をしたのかお聞きしたところ、やはり

- ① 健康 ② 家内安全

本当にその通りですね。

健康だからこそできる様々な活動や挑戦があり、運動や機能訓練にも一生懸命取り組み、また美味しく食事を食べることができて、大笑いにつながる。

ご利用者様のこんな声をよく聞きます。

『家だと誰とも話さないで一日ぼーっと過ごしちゃうけど、ここに来て、こうやってバカな話をして大笑いしてる時間が一番いいわ』と。



さわやかデイサービスに見学に来た方が、頻繁に言われる言葉は

「この方は平均年齢が若いですね」

「皆さんイキイキして元気な方ばかり」

きっと心から笑い、楽しみ、みなさんキラキラされているのだと嬉しく思います。



### さわやかタウン の レストランでは

毎月イベントランチを定期的で開催しております。その月の行事に合わせての行事食やレストランで大人気の山下さんのお寿司、飯野さんの洋食など、お楽しみ料理を提供させていただいております。

5月のイベントランチでは、ゴールデンウィークに山下シェフの握り寿司の日、飯野シェフの手作りおやつを予定しております。

皆様のお越しをお待ちしてます。



山さんのお寿司

2月3日の節分ランチの様子です